



1928年(昭和三年)八月七日

赤ん坊の命名式も行つた。北海道の名木カツラ  
に因み桂子と命名した。詩篇第百二十七篇を朗  
讀し、彼女の爲に祝福を祈つた。後に家族一同五  
人に親戚の若二人を合せて豊平會館に感謝の畫食  
を共にした。會館は今より五十年前、自分が札幌農  
學校在学中に成つたものである。其古い建築物に於  
て我が孫の出生祝賀の筵を設けることが出来たとは  
不思議の因縁である實に「エホバ家を建て給うにあ  
らずば建つる者の藁が勞は空し視よ子等はエホバの予え  
を合はる司業にして、月台の實はその報いの與る物なり」であ  
る。自分の生涯の末期がこんなになるとは夢にも思わなかつた。  
(先生の日記より)